

長期戦略:テーマ 「理系研究室の充実」

提出日 2020年4月1日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	小菅副学長(総括) (学長室大学院課)	実施計画の 担当部署	理工学部
-----------------------	------------------------	---------------	------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
2-(2)-① 学部から前期課程への進学率増の施策	(2019)年度	(2021)年度	必要なし	不要

内容

本大学理工学研究科においては、一定数の大学院生を確保することが教員の研究活動と直結するだけでなく、学部・大学院の教育、後期課程への進学者数、研究者の輩出数等とも深く関連するため、本大学理工学部から前期課程への進学者比率を2021年には、50%以上、2027年には60%以上を確保する。

そのために、学部入学直後のオリエンテーションから大学院進学への価値(高度な研究の魅力、研究開発職への就職率、大学院卒の年収・生涯賃金の高さ等)をデータに基づいてキャリア説明会を新たに開催し説明すると共に、新たに入学式で保証人の方々に対して説明する機会を設ける。また3年の春学期には、大学院オープンキャンパスを実施し、大学院進学を意識づける。さらに、他大学大学院への流出を防ぐためにも、大学院早期履修制度での大学院科目の先取り履修、推薦入試制度見直し、仮進級制度見直し、早期卒業制度の設置など修学期間を短縮する施策等を実施する。さらに学部1年生と院生との懇談会実施及び学部1年生へのアンケートを実施することで、大学院進学をエンカレッジする。具体的な施策は次のとおり。

- 大学院先取り履修制度:学部時代に大学院科目を早期履修させ、その科目を大学院進学した段階で大学院修了単位に認定する制度
- 早期卒業制度:学部を3年間で早期卒業する制度の拡大
- 保証人対象大学院進学説明会の新設:保証人対象として、大学院進学への価値を理解してもらうため入学式当日に開催
- 1年生対象大学院進学に向けたキャリア説明会の開催:1年生を対象として、学部入学直後のオリエンテーション等での大学院進学への意識付け

また、2019年度入学生より、理工学研究科を対象に学費値下げを行い、国立への流出を防ぐ施策を実施したが、業務報酬型奨学金制度導入(仮称)による支援体制充実を図ることにより院生確保を図る。具体的な施策は次のとおり。

- 業務報酬型奨学金制度の新設・導入:TA予算増額がこれ以上望めないため、新たに業務報酬型奨学金制度を導入し、学生確保を図る。

業務報酬型奨学金制度
についてはペンディング

進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式
指標1	大学院先取り履修制度及び早期卒業制度を利用した入学者数	学部時代に大学院科目を早期履修させ、その科目を大学院進学した段階で大学院修了単位に認定する制度及び学部を3年間で早期卒業する制度を活用して本大学院に進学した学生数。
指標2		
指標3		

目標1<指標1>大学院先取り履修制度及び早期卒業制度を利用した入学者数

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標	0名	0名	45名	70名
実績				

目標2<指標2>

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標				
実績				

目標3

	(2019)年度	(2020)年度	(2021)年度	4年目以降
目標				
実績				

2. ロードマップ

		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学院先取り履修制度・早期卒業制度	策定段階	制度設計	制度設計	運用開始	運用・制度見直し	運用・制度見直し
	2020年3月末段階	-	-	-		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	運用・制度見直し	運用・制度見直し	運用・制度見直し	運用・制度見直し	
	2020年3月末段階					
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
保証人対象院進学説明会、1年生対象院進学に向けたキャリア説明会 業務報酬型奨学金制度	策定段階	制度設計	制度設計	説明会実施・奨学金制度導入	説明会実施・奨学金運用	説明会実施・奨学金運用
	2020年3月末段階	-	説明会実施 制度設計	-		
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	-
	策定段階	説明会実施・奨学金運用	説明会実施・奨学金運用	説明会実施・奨学金運用	説明会実施・奨学金運用	
	2020年3月末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】

非公開

経費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

(2021)年度

4年目以降

非公開

人員・人件費 単位:万円

2019年度 承認

2020年度 承認

(2021)年度

4年目以降

非公開

4. 進捗状況・得られた成果

(2019) 年度	
(2020) 年度	
(2021) 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院科目早期履修制度については、2020 年度からの実施に向けて、理工学研究科では了解を得て、提供科目も各専攻概ね決定している。具体的な運用・業務フロー等を学長室、教務機構と調整中。 ・保証人対象の説明会は 2020 年 4 月入学生から実施する方向で検討中。
(2020) 年度	
(2021) 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	内部生の大学院進学策を遂行するために、事務職員 1 名の配置を認める方向とし、人事部にて対応します。ただし、理工学部再編に伴う申請業務も含まれます。
2019 年度	—
() 年度	